

わたしの心を温かくしてくれる思い出のひとつに、小学校一年生のときの教室のできごとがあります。

その日、クラスみんなでクジ引きをすることになりました。なにをもらうためのクジだったのかは忘れてしまったけれど、楽しい雰囲気だったから、きっとレクリエーションの時間だったのでしょう。

担任は若い男の先生でした。順番にクジを引きなさいと先生が言ったので、生徒たちはいっせいに前に走っていきました。

だけど、わたしはグズグズして出て遅れてしまった。クラスメイトの中で一番ビリ。

こんな最後に並んだら、もういいものなんてもらえない……。

そう思うと悲しくて、せっかくの楽しかった気持ちもしぼんでしまったのです。

ずると思ってもないことが起こりました。

先生がわたしのところにやってきて、みんなの前でこう言ったのです。

「一番最後に並んでえらかったな」

わたしは先生にほめられて、びっくりしました。びっくりしたけど、すごくうれしかった。うれしくてうれしくて、もう35年も昔のことなのに、思い出すと今でも温かい気持ちになるのです。

先生は、最後の子供までちゃんと見ていて待っていてくれた。はやくはやくって言わないうで待っていてくれたのです。

励まされたり、なぐさめられたり、人はたくさん言葉を受け取って前に進んでいく。でも、一番うれしいのって、誰かが待っていてくれたことじゃないかなと、わたしは思うのです。

ながく読みつがれる絵本になることを願って。

2010年 秋

益田 ミリ

